

いわた 文化財だより 第218号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和5年5月1日発行

目次

- 特別史跡 遠江国分寺跡 講堂・僧房の
木装基壇が完成しました！ P1～2
- 連福寺古墳出土三角縁神獸鏡が市指定文化財に P3
- 『見性寺遺跡第8次発掘調査報告書』を
刊行しました P4
- コラム『城之崎城を想う』大村至広 P4

特別史跡

とおとうみ

遠江国分寺跡

もくそう きだん

講堂・僧房の木装基壇が完成しました！



僧房(そうぼう)

講堂(こうどう)

復元木装基壇空撮写真（南西から撮影）

特別史跡 遠江国分寺跡では、平成17年度より史跡の再整備事業に取り組んでいます。整備に伴う発掘調査に基づき、平成28年度には『整備基本計画』を策定しました。令和3年度からは整備工事に着手し、令和4年度にはついに**講堂と僧房の木装基壇が完成しました。**

木装基壇

※基壇とは建物の土台のことです。本来はこの上に金堂や講堂などの仏堂が建てられていました。

遠江国分寺跡は、発掘調査の結果、金堂や塔、講堂、僧房などの基壇の外装が**木装**であったことが判明しました。

奈良時代の寺院では、石材や瓦で基壇が外装されている事例が多くみられるなかで、木材が用いられていることは**遠江国分寺の特徴のひとつ**です。

再整備事業では、最新の調査・研究成果に基づき、木装基壇の構造や規模の復元をおこなっています。



復元された木装基壇（講堂）

僧房

国分寺には20人の僧が置かれていたとされます。この長大な建物の中で、僧たちは生活していたと考えられます。



講堂

僧が経典を学んだ建物です。11世紀頃の記録では、高さ4.8mの阿弥陀像など、8体の仏像が安置されていたとあります。

復元基壇空撮写真（南から撮影）

整備のポイント！

※講堂と僧房の木装基壇は、現在自由に見学できます。

- 整備にあたっては、奈良時代の木装基壇跡を地下にて**保護**することを**第一**としています。
- 整備では、見える部分についてはかつての木装基壇の形状を復元しつつ、見えない部分については現代工法を用いて安全性や管理性を高めています。
- 木装基壇に使用されている木材は、発掘調査の成果に基づき、**ヒノキ**を用いています。
- 木材には**液体ガラス**による改質処理をおこない、防腐・防汚等の効果を高めています。
- 僧房では、基壇の周りを巡る**雨落溝**（屋根から垂れる雨水を受ける溝）を舗装により平面的に表示しています。

令和5年度 遠江国分寺跡整備事業の概要について

令和5年度には、**金堂基壇**の整備工事を実施します。金堂における発掘調査や研究成果では、講堂や僧房以上にその構造が明らかになっており、南正面に設置された**石階段**や基壇上面に並ぶ**礎石**（建物の柱を支える石材）などを整備していく計画です。

遠江国分寺のスケールを、より体感しやすくなると思いますので、完成を楽しみにお待ちください。



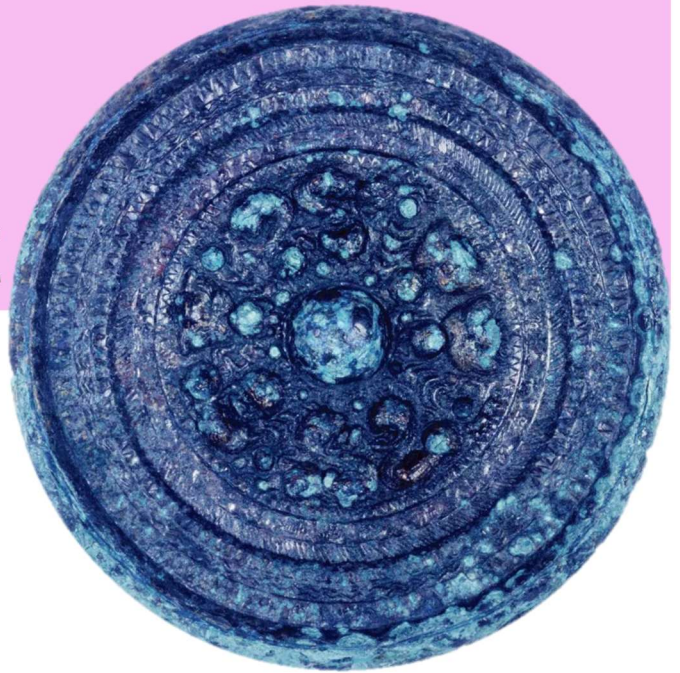
完成イメージ図

速報

れんぷくじ 連福寺古墳出土 さんかくぶち しんじゅうきょう 三角縁神獣鏡が 市指定文化財に

連福寺古墳から出土した三角縁神獣鏡が、令和5年4月28日に新たに磐田市指定文化財となりました。これで、市の指定文化財は136件となります。

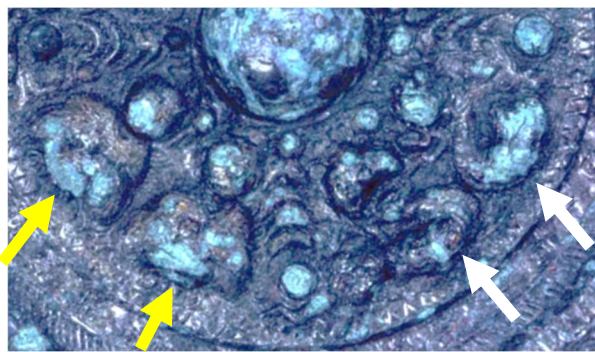
この銅鏡からは、近畿地方の大和王権との結びつきがうかがえ、磐田原台地南縁における古墳時代前期の古墳の様相を知るうえで重要な資料であるため指定となりました。



三角縁神獣鏡（背面）

連福寺古墳出土三角縁神獣鏡とは

連福寺古墳は、連福寺（二之宮）境内にあった古墳時代前期（およそ1600年前）の古墳です。現在、墳丘は残っていませんが、かつては墳丘とされる高まりから全長50メートル以上の前方後円墳と推定されます。



三角縁神獣鏡の背面拡大
（黄色矢印が神、白矢印が獣）

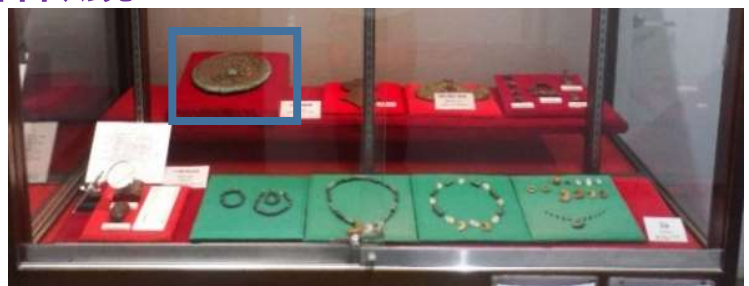
見やすいように画像を明るくしています

三角縁神獣鏡は、古墳時代前期に中央の大和王権が各地の有力者に配ったとされる鏡で、鏡面の反対側の背面には名前の由来となっている神や霊獣が描かれています。今回指定となった鏡は、昭和40年の県道拡幅工事の際に見つかったもので、直径22.5cm、3人の神と5匹の獣が表現されています。神と獣が同じ配置で作られた鏡に、京都府椿井大塚山古墳、奈良県黒塚古墳などの有力古墳があります。

土日も見られます！三角縁神獣鏡

連福寺古墳出土三角縁神獣鏡は、現在、埋蔵文化財センターで展示中です。

今年4月から、平日に加え、第2・4土日センターを開所しています。ぜひ一度ご覧ください（祝日休館、入館無料）。



展示ケースに並んでいる様子（青枠）

『見性寺遺跡第8次発掘調査報告書』を刊行しました

文化財だより第171号でも調査成果を掲載した、ダイハツ磐田見付店建設に伴って平成30年度に現地調査をおこなった、見性寺遺跡第8次発掘調査の報告書をこの度刊行しました。

見性寺遺跡は縄文時代の貝塚として著名ですが、今回の調査では縄文土器や石器に加えて、古代から中世の建物の跡や土器などが見つかりました。それらの中でも、平安時代末期の舟が出土したことは大きな成果と言えます。この舟は、かつて今之浦地区周辺に広がっていた潟湖を行き交っていたものと考えられます。

調査報告書は、磐田市内の図書館で閲覧できます。また、埋蔵文化財センターにて、1冊2,000円で販売しています。郵送（要送料）も可能です。ご希望の方は下記までお問合せください。

【問合せ先】 文化財課 TEL:0538-32-9699/FAX:0538-32-9764



A4判、本文195ページ、写真図版27ページ（巻頭カラー4ページ）

職員リレー コラム

城之崎城を想う

大村 至広

文化財だより2月号でも取り上げられている城之崎城については、城之崎出身の当方にとって、地名の由来でもあり、身近な存在である。

城之崎城とはいうものの、所在地は見付であり、西貝に属する城之崎とは村（地区）としては別になる。近くにあっても小学生で言えば「学区外」に当たる。

中学校はこちらも城之崎城に由来する城山中学へ通ったが、城山球場が通学路の横に構えており、球場の土塁は通学・帰宅時には見慣れた光景であった。城山球場の脇を西側から北側へ回っていく。球場の脇の上り坂は急だった。通学にして地形としての「城山」を体感していたことになる。冬の風の強い日は土塁の木立が大きく揺れていたことを思い出す。

未完の城ということであれば、戦国の合戦には使われていないことを意味する。その代わりに今は野球場として平和の合戦（試合）が行われている。



城之崎城（城山球場）西側の土塁

編集後記 このたび、連福寺古墳出土三角縁神獣鏡が市の文化財に指定されました。埋蔵文化財センターにて展示中ですので、ぜひ実物を見にきてください。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 [磐田 文化財だより](#) [検索](#)